



ショートコメント

★★★★

Data 2022-79

# マーベラス

2021年/アメリカ・イギリス映画  
配給: REGENTS/109分

2022 (令和4) 年7月2日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

監督: マーティン・キャンベル  
脚本: リチャード・ウェンク  
製作: 『ジョン・ウィック』  
製作スタジオ  
出演: マギー・Q/マイケル・キートン/サミュエル・L. ジャクソン  
/ロバート・パトリック

## 👁️👁️ みどころ

私は小難しい社会問題提起作や歴史大作が大好きだが、同時に美女スパイが活躍する“活劇もの”も大好き! 『アトミック・ブロンド』(17年)や『レッド・スパロー』(17年)、『ANNA/アナ』(19年)等に続く、『マーベラス』と題された本作には3人の“マーベラス”(超一流)が登場するが、誰よりもマギー・Q扮する、復讐に生きる暗殺者・アンナに注目!

敵の手に落ち、いたぶられる場面がこの手の映画の定番なら、重傷を負っての脱出と復活も定番。しかし、「殺る?それとも、やる?」の質問と、その後の展開にはビックリ。その他さまざまな仕掛けにも注目したいが、“ベッドイン”経験者同士の最後の対決は如何に?

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆シリアスな「スパイもの」も面白いが、たまには美女スパイが大活躍する単純な(?)「活劇もの」もいい!近時のその代表が、シャーリーズ・セロン主演の『アトミック・ブロンド』(17年)(『シネマ41』194頁)、ジェニファー・ローレンス主演の『レッド・スパロー』(17年)(『シネマ41』189頁)。サッシャ・ルス主演の『ANNA/アナ』(19年)(『シネマ47』76頁)もそうだった。しかして、本作は?

◆「マーベラス」とは「驚くべきさま。感嘆すべきさま。奇跡的で素晴らしいさま。」だが、それが転じて“超一流”を意味することになる。しかして、「マーベラス」と題された本作は、「完璧を追求する護衛者」レンブラント(マイケル・キートン)、「復讐に生きる暗殺者」アンナ(マギー・Q)、「最後の贖罪を願う工作員」ムーディ(サミュエル・L. ジャクソン)という3人の超一流の主役たちが大活躍!

監督は『007/カジノ・ロワイヤル』、『007/ゴールデンアイ』と2作の『007』を手掛けたマーティン・キャンベル。そして、製作は『ジョン・ウィック』製作スタジオだから、チラシに書いてある通り「3人のプロフェッショナルが織りなす極限のアンサン

ブル」に注目！

◆本作冒頭の舞台はベトナム。そこでは若き日のムーディが、ある任務を達成。その後もさまざまな任務を請け負ってきた。しかし、それから30年後の今は、師弟コンビとして親子のような絆で結ばれた美女アンナに、すべての仕事と財産(?)の継承を考えているらしい。

アンナの表の顔は古書店の女店主だが、ある日そこを訪れてきた男レンブラントは一体何者?そこでのプロ同士の何とも含蓄の多い会話に注目していると、その直後にムーディが殺されてしまったから、アレレ……。

◆『アトミック・ブロンド』の主役は、MI6に所属する優秀な女スパイだったから、あくまで国家的任務達成のために奮闘していたが、本作は、ムーディの死亡から始まる、アンナの「復讐に生きる暗殺者」としての奮闘がストーリーの中核になる。本作中盤の展開でマーティン・キャンベル監督があえて観客にぼやかすのが、レンブラントたちが仕えている“影の帝王”の人物像。アンナがムーディの復讐を達成するためには、どうしてもその“影の帝王”に辿り着かなければならないが、そこに至るまでにはさまざまな紆余曲折が……。

奮闘むなしく、途中でアンナが捕まってしまうストーリーはこの手の映画の定番だが、どんな拷問を受けても弱音を吐かないのもこの手の映画の定番。いかにいたぶられても、美しい顔に傷をつけられることはないし、そのうちに脱出し、復活するのは約束ゴトだと安心して楽しむことができる。さあ、アンナの苦境の乗り越え方は……?

◆『マーベラス』と題された本作は、敵役のレンブラントに敬意を払い、知能でも格闘術でも超一流の取り扱いをしているところが面白い。したがって、最後はお互いに敬意を抱きながらの、アンナとレンブラントの対決になるが、あっと驚くのは中盤で2人がベッドインしてしまうシークエンス。その前後には、レンブラントがアンナに「殺る?それとも、やる?」と質問する名セリフがあるので、それに注目し、アンナがいかなる回答をするのかにも注目!いくら敵同士でも一度ベッドインし情を交わしてしまうと敵対心が落ちるものだが、さて本作は?

◆マギー・Qの代表作は、香港映画『レディ・ウェポン(赤裸特工)』(02年)、『シネマ17』145頁)。その評論で、「私にはハリウッド映画の『チャーリーズ・エンジェル』以上の出来だと思えたが……?」と書いたが、1979年生まれ彼女は、その当時20代前半だから綺麗でカッコ良かったのは、当然。それから約20年後の今、本作に見るマギー・Qは、少し年は取ったものの、何の何の!まだまだ元気!まだまだ美人!

本作では、そんな彼女の見事なアクションに注目！

2022（令和4）年7月5日記